

大分市立田尻小学校 学力向上プラン1（8月）

学校教育 目標	豊かな感性、たくましい心と体、自ら学ぶ意欲をもつこどもの育成
育成を目指す 資質・能力	言語能力(表現力・コミュニケーション能力)、問題発見・解決能力

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・6年生の全国学力・学習状況調査では国語・算数が全国・県の平均値を上回った。(4月) ・5年生の県の学力定着状況調査では国語、算数、理科で全国・県の平均値を下回った。(4月) ・6年生の算数は前年度ほぼ平均値だったが、数値が上昇し、県、全国平均を上回った。 ・5年生は国語、算数で苦手な傾向は継続している。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・6年生は学習に対して意欲的で徐々に学力が向上している。 ・5年生は授業規律に対する意識が少しずつ向上してきている。 ・R7の学校評価アンケートの年間平均では「規律順守」95.5%、「ノートの活用」97.1%、「家庭学習」97.3%という結果で前年度同様、高評価だった。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・学習規律の確立はかなり整ってきたが、学年、学級によって少し差がある。語先後礼等、小中一貫教育で確認した取組の徹底を継続している。 ・発言力が弱く、自分の意見を言えていない傾向がある。 ・読書量が少なく、学校評価アンケートでも「進んで読書をしている」と答えた児童は75.5%と前年度から微増であり、決して高いとは言えない状況である。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・1時間完結型の授業を全教職員が意識して行えている。 ・国語と算数ではペアワーク学習に取組、自分の意見を言える場面が増えてきた。しかし、交流の仕方に課題があり、今後も継続していく。 ・一人1台端末を用い、自分の意見を色分けし提出するなど、表現の場の工夫は継続して取り組んでいく。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・学習規律の確立については徐々に出来ているが、学年、学級による差があり、継続していく必要がある。 ・読書量が少ないので読書活動に進んで取り組ませる。 ・習熟度別の学習がなかなか進んでいない。個別指導については、時間の捻出が難しい。 ・授業でICT機器を活用することに、どの教員も進んで取り組んでいる。	

学力に関する達成指標

- ・単元末テスト(国語・算数)において80点以上の児童を80%以上にする。40点未満の児童を7%以下にする。
- ・学校評価アンケートで「授業がよく分かる」と答える児童の割合を90%以上にする。

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の 具体的 な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 (授業改善テーマ) 主体的に学ぶこどもの育成 ～算数科の授業における場の工夫を通して～ (授業改善の重点) ①考えをもつ場を工夫した授業の推進 ②ペアやグループ学習を活用し、交流の場を工夫した授業の推進 ③ICT機器を活用した授業の推進	
	〈取組内容〉 ①自分の考えをもつ場の工夫した授業を行う。 ・既習事項との共通点、相違点に着目することのできる場の設定 ・問題に対する見通しをもつ場の設定 ②生徒指導の三機能を生かした、児童が主体的に取り組める授業を行う。 ・学習規律の確立（自己存在感） ・自分の考えをもつ。自分の考えを書く。(自己決定の場) ・ペアトークやグループトークによる交流と質の向上。(共感的人間関係づくり) ③ICT機器を活用して意見交換や表現を行う。また家庭学習にICT機器を活用する。 ④分かりやすい板書にする(構造化)、ノートの一体化。 ⑤図書館の蔵書を使って調べ学習に取り組ませる。読書活動の充実。	〈家庭・地域の取組内容〉 ①保護者と連携した家庭学習。 ②ノーメディアデー(水)の徹底。 ③読書活動の充実。 ④「すぐる」による学校情報の発信。 ⑤学校ホームページの工夫による学習指導・生活指導の啓発。
	〈取組指標〉 ・校内研修の充実 ・互見授業の実施(全員) ・小中一貫教育の取組。(年3回の植田南中学校区小中合同研修会の実施) ・思考を促す課題や発問の工夫を行う。 ・自分の考えをもつ場の工夫を行う。 ・毎時間1回は、ペアやグループ学習を行って、考えや困りを聞き合い、考えを理解しようとする児童の育成を行う。 ・ICT機器の使用を充実させる。一人1台端末の持ち帰りは状況を見ながら行う。 ・授業で読書活動の時間を設ける。図書館利用の回数や読書数を増やす。	〈家庭・地域の取組指標〉 ・学期に1回、家庭学習調査を行い、家庭学習の取組状況を把握する取組を継続する。 ・学級懇談会や学年通信等を通して家庭と連携する。 ・「すぐる」やHPで学校便りを発信したり、アンケート結果を知らせ、協力を呼びかける。 ・HPに学習・生活面で教育情報の発信をする。
	〈検証指標〉 ・「他学年の授業を1回以上は参観する」を100%にする。 ・児童による学校評価アンケートにおいて「学校の授業がよく分かる」「学習のきまりを守る」を95%以上にする。(R7年間平均95.2%) ・児童による学校評価アンケートにおいて「授業中に課題やまとめをノートにきちんと書いている」を達成率年間95%以上を継続する。(R7年間平均97.1%) ・職員の自己評価の「基礎・基本の学力の定着と向上、低学力層の底上げを図っている」を100%を目指す。(R7年間平均88.82%) ・図書館の蔵書を使っている調べ学習を積極的に行う。	〈家庭・地域の検証指標〉 ・保護者による学校評価アンケートにおいて「ゲームやテレビの時間を守る」を70%以上にする。(現状66.7%) ・「読む力、書く力を身に付けるため、読書などに取組、文字に親しんでいる」を60%以上にする。(現状54.7%)
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ①生活のきまりを守る。規範意識の高揚。(小中一貫教育と連動した教育活動) ②ノーメディアデー、読書量増加の取組。(読書活動の充実による、読む力の向上) ③基礎・基本の学力を定着するための家庭学習の工夫に加え、低学力層向けの課題の出し方を工夫し、提出率を向上させる取組。	